

「国土の総合的点検」中間とりまとめに寄せられた主な意見について（P I）

平成16年2月

頂いたご意見については趣旨を変えない範囲で表現を簡略化して掲載しました。  
「国土の総合的点検」に直接関係のないご意見は掲載しておりません。

1.国土計画のあり方等について

	小項目	年代	性別	職業	住所	いただいた主な意見	意見に対する考え方(案)
1	(国土構造について)	40代	男	会社員	東京都	単なるトレンドベースではなく、明確な意志・政策の下実現可能なあるべき我が国の姿を国民に示すものとしてほしい。	ご指摘の目指すべき国のかたちに関する観点を踏まえ、最終取りまとめに向けて検討を進めてまいります。
2			男	大学教授	北海道	国民の「国土観の変化」を3部をまとめたイントロに入れられないか。例えば、鉄道の時代(明治後期から大正)、モータリゼーション前夜、高度経済成長とアバニゼーション(モータリゼーションにも触れて)、グローバルゼーションと成熟社会、などの区分で、日常生活圏域と国土の関係がどのように変化してきて、現在の国土観が生まれてきているか。	ご指摘の国土づくりの時代変遷という観点を踏まえ、最終取りまとめに向けて検討を進めてまいります。
3			男	大学教授	北海道	交通・通信ネットワークの進展は活動を広域化させ、国・地域・都市といった単位で空間経済を捉えること自体に根本的な変更を強いる。空間構造がダイナミックに変化する中で、活動拠点の階層的構造も変容し、従来からの空間経済理論ではそれらの現象を説明することには限界が生じている。広域化を国際的レベルで捉えると、グローバル化という表現が多用される。しかし、その具体的内容は一様ではなく、また、一方では地域の独自性に根ざした自立性が主張され、グローバル化とは逆のローカル化の動きも見られる。すなわち、それぞれの地域・都市はネットワークの中でグローバルな活動の拠点となっていく場合もあれば、ローカルな拠点として存立していく場合もある。前者を集中化、後者を分散化の動きとすれば、両者が並行的に進行しており、その結果としてどのような空間構造がこれから実現するのかについて確立された見解は未だ存在しない。	今回の「国土の総合的点検」では、世界と競争しうる自立的な地域のまとまりとして「地域ブロック」の形成を提案し、日常的な生活機能を維持しうるまとまりとして複数の市町村からなる「生活圏域」の形成を提案しております。これらの圏域が重層的に形成されることで、それぞれの地域・都市の選択と責任の下、グローバル化やローカル化に向けた地域自らの取組が、国土全域にわたり活発化するものと考えています。
4			男	大学教授	北海道	インフラ政策においても、計画の空間的範囲、意思決定の主体や権限の配置を根本的に見直さなければならぬ。国土というレベルを基準にして世界をグローバルと見る従来の捉え方は適切でなく、例えば、地方の中小都市が世界規模の経済活動と直接に連動したり、あるいは大都市圏部が必ずしも国際的拠点とはなりえない場面も今後はあり得よう。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。

5			男	会社員	東京都	<p>国土構造の将来像は、欧米と同様に、「世界経済の中で何らかの存在意義を持ちネットワーク化された諸都市圏・先進農山漁村と、その間に広がる人口希薄地域」、ということにならざるをえない。今後無数の郊外疲弊地区を抱えていくことになる首都圏が、引き続き国土の隅々に所得移転を行いながら君臨するというのは無理である。最低限の所得移転で成り立ち相互にネットワークしあうだけの経済的中身を有している都市圏や新世代型の農山漁村（特産品振興や観光振興、退職後の定住者受け入れなどで経済的に成り立ち人口動態的にも安定している農山漁村。すでに各地に登場し始めている）を増やし、その間を結ぶネットワーク型的高速交通インフラ（鉄道は現行システムの延長でいいが、航空は1回の乗換えで国土のどこからどこにでも行ける小型機材中心の高頻度運行システムへと抜本的な組み換えが必要）と、人材育成インフラ（社会人職業再訓練校や社会人大学）、医療福祉福祉インフラ（ハード&amp;ソフト）を構築することが、これからの国土構造上の最大課題となる。</p>	<p>今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。          なお、これに関連し、国際連携・持続的発展基盤小委員会の報告「3.(5)幹線交通」において「ブロック間の交通については、小型機材の運航を可能とする環境の整備も視野に入れた航空網によって分担する」と記述しています。</p>
6		40代	男	会社員	東京都	<p>海外からの移住者も含めた日本人の人口規模をどの程度どう確保するのかといった視点も重要ではないか。</p>	<p>今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。なお、日本の人口の適正規模については、国土計画の立場のみから導き出すことは困難であること、有識者の間でも、生態環境の容量、空間的容量、雇用機会など様々な観点からの見解があること、等について配慮する必要があります。          外国人の受入については、記載を追加する方向で検討しています。</p>
7			男	大学教授	東京都	<p>2005年はわが国の総人口が未曾有の減少に転じる歴史的転換点と言われている。ダウンサイジングの国土計画は従来とは全く異なる発想が必要となることだろう。</p>	<p>責みの通りと考えます。「国土の総合的点検」においても、「生活圏域レベルの広域的な対応」や「都市的土地利用の集約化等による持続可能な美しい国土の形成」等、従来とは異なる概念を提案しております。</p>
8	(今後の計画のあり方について)	30代	男	会社員	神奈川県	<p>地域的偏在に伴う諸問題の解消のみならず、国が責任を持つべき行政分野（例えば新産業の育成、通商政策等）については、国として国土利用のあり方についての戦略を持ち、「選択と集中」を国レベルでも行うべきでないかと考えられる。</p>	<p>「二層の広域圏による自立・安定した地域社会の形成」において、「選択と集中」の考え方に基づき、拠点都市圏、産業集積という拠点を形成することが重要であることを記載しております。ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。</p>

9		30代	男	研究員	東京都	「多様な地域」「多様な主体」による自主的な取組が重要になる今後の国土・地域政策においては、包括的な将来像や目標を国が示すことは困難であり、これまでのような総合的な計画ではなく、もっとテーマを絞った戦略的な計画を目指すべきではないか。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
10		30代	男	研究員	東京都	指針性の充実や、計画策定後の分析・評価といった、今後の計画行政のあり方に関する視点が欠けていないか。	ご指摘の指針性の充実等の観点を踏まえ、最終取りまとめに向けて検討を進めてまいります。
11		40代	男	公務員	兵庫県	何が政治的イシューかを考え、国土計画がアプライオリにあるという考え方を捨てるべきである。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
12			男	会社役員	東京都	大きな方向に違和感はないが、新しいことがない。現在、世の中で問題になっていることについて、それをブレイクスルーするために、国土計画で何をするか、突っ込んだ検討が必要である。方法論についての大胆な提言が必要である。	ご指摘の国土計画の役割に関する観点を踏まえ、最終取りまとめに向けて検討を進めてまいります。
13	(書き方について)	30代	男	研究員	東京都	これからの国土計画は一方的に提示するものではなく、多くの国民や関係者に「読んでもらえる」努力が必要。今回の報告も、内容や発表の仕方に工夫が必要だったのではないか。	本文中に図表を挿入するなど、見やすくわかりやすい構成になるよう工夫します。
14		40代	男	会社員	東京都	広く国民にPIを求めるには文章が難解すぎる。	分かりにくい用語を避けるなど、読みやすい表現を工夫します。
15	(その他)	30代	男	会社員	神奈川県	「国土の均衡ある発展」を国土計画の全面に押し出すのは適当と考えない。「個性ある地域の競争を通じた発展」とか「自立した地域間の競争を通じた発展」など、国土計画全体を象徴する新たな理念を検討していただきたい。	「国土の均衡ある発展」については、その本来の趣旨である、地域の特性を生かした自立的な地域づくりを進めていく必要がありますが、その理念の意味するところは継承しつつも、国民にわかりやすく共感できる理念に再構築することについて、国民的な議論を進める時期に来ているのではないかと考えます。

16			男	会社役員	東京都	国土軸が「21世紀の国土のグランドデザイン」策定後、なぜ定着しなかったのか分析すべき。	「21世紀の国土のグランドデザイン」で掲げた「多軸型の国土構造」は国土構造転換の方向性を示す概念としては理解されるものの、政策展開の指針として十分機能しているかという疑問が残る点もあります。そのため、今回の「国土の総合的点検」では、人々の諸活動の空間的広がりに着目した国土構造のまとめりとして、二層の広域圏を提示しており、もって、国民の理解を深めるとともに、各種政策立案の指針となることを企図しています。
17			男	大学教授	北海道	「政府の失敗、市場の失敗、コミュニティの失敗」の中で、コミュニティの失敗を起こさないために、国がなすべきことは何か？ 国一都道府県一市町村の関係で、地方分権が言われて久しいが、国がコミュニティレベルを先導してゆく責務が、わが国では沢山あるのではないが、それが論じられていない。	ご指摘の国の役割に関する観点を踏まえ、最終取りまとめに向けて検討を進めてまいります。
18			男	大学教授	東京都	総点検の中で書くことは難しいが、具体的事例を示すなどして、地方が元気になるようにしてほしい。たとえば、中国は経済成長が著しく、全国平均はまだまだ低いですが、沿岸部の都市住民の平均年収は日本人以上に高く、日本の優れた家電製品や質の高い農産物などの需要は高いものと思われる。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
19	30代		男	研究員	東京都	国土計画の中で「国際」が社会基盤整備の観点からしか論じられないのは不十分ではないか。産業構造へのインパクト等、地域経済的な視点からの分析がもっと必要。	今後の国土の在り方を考える上で、国際的な視点、たとえば「東アジアの中の日本」という視点は大変重要であると考えています。ご指摘を踏まえ、最終取りまとめに向けて、「国際」的な視点について検討を進めてまいります。
20			男	大学教授	東京都	少子高齢化と同様に家族のかたちの機能が大きな変化をみせている。介護保険の際にもこうした議論があったが、家族が担ってきた役割を地域が担うのか？ モビリティやITなどの技術によって離れて暮らしても家族の機能を維持できるのか？	ご指摘のような視点に関しては、今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
21	40代		男	公務員	長野県	国土交通省から細分化されたデータ結果を頂いて地域計画の参考としたい。	今後ともデータ結果等を積極的に公表・提供していきます。
22			男	会社役員	東京都	この報告書を外国の人に読んでもらい意見を聞くと、違った視点の意見が貰えるのではないか。	国土の総合的点検報告の取りまとめに際しては、この報告書が外国人を含め、多くの人に読んでもらえるようPRIに努めます。

2.二層の広域圏による自立 安定した地域社会の形成

	小項目	年代	性別	職業	住所	いただいた主な意見	意見に対する考え方(案)
23	(二層の広域圏について)		男	会社役員	東京都	今後、人口が減少する中で社会を維持していこうとすると、二層の広域圏の考え方をとる以外のないことは理解できる。	ご指摘のような認識のもとに、今後の国土政策に取り組んでまいります。
24			男	大学教授	東京都	二層の広域圏の考え方については理解する。地域ブロックが経済を牽引し、生活圏域が生活を支えることが基本となっているが、これからは生活関連産業も重要であり、生活圏域も地域ブロックも経済生活を支える圏域と位置づけ、むしろ生活圏域は地域ブロックを通じて、世界と繋がっているという認識を強調する方が良いのではないかと。	ご指摘の趣旨を踏まえ、第 部の冒頭において、地域づくりについて、「ほどよいまち」の一つ一つが、経済面では、地域ブロックの拠点からの波及を受けとめる「それぞれの魅力や素地を持ち、地域ブロックの競争力を支えていく」との記述を追記いたしました。なお、生活基盤産業に関して第 部3.(3)等で所得機会の確保等に重要なものとして記載しております。
25		30代	男	研究員	東京都	なぜ「生活圏域」「地域ブロック」の二層構造が望ましいのかの説明が分かりにくい。	第 部冒頭に両者の関係などを整理させていただいたところですが、今後の検討にあたっては、両者の意義等を国民により分かりやすく説明し、理解が得られるよう努めてまいります。
26			男	大学教授	北海道	机上の議論が多すぎる。実態は、集落崩壊が起きている中山間地域、人口減少が起きているが安定している中山間地域(人口の集積を問題としない地域)、人口低密度地域、・・・など、実態に合わせた分類が必要で、その分類に沿って対策を議論すべき。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
27			男	大学教授	東京都	現在英国では州政府の設置により中央 - 州 - 基礎自治体 - 住民自治の4層制のガバナンスシステムへ進んでいるところであり、我が国も市町村合併の次には一気に道州制へ議論が進むであろう。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
28	(生活圏域について)	30代	男	会社員	神奈川県	「生活圏域」は、主に都市的サービスを充足すべきものとして捉えられているが、同時に、圏域内に住む人々の雇用の場をいかに確保していくかという点も重要な課題であると考えます。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。なお、これに関連し、第 部3.(3)「住民の生活に必要な所得機会の確保」において、「住民生活に根ざした生活基盤産業とでも呼ぶべき産業を興すこと」等を記載しています。

29			男	会社役員	東京都	生活圏という言葉は、新全総以来用いられている概念と似ており、昔のことを再度言っているような印象を受けるので、もっと良いワーディングが必要ではないか。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。なお、ご指摘の趣旨を踏まえ、「全総における定住圏との比較」に関する記述を追記いたしました。
30			男	会社役員	東京都	この理念を実際の政策に移す際に、広域市町村圏などの既存の枠組みに吸収されてしまい、国土計画の理念が反映出来ない可能性を危惧する。どのように具体的政策に落とすのかが課題ではないか。	貴見の通り、既存の枠組みとの関係を整理していく必要があると認識しており、今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
31	(地域ブロックについて)		男	大学教授	東京都	地域ブロックについてはブロックのまとまりをどの様に作っていくか仕掛けを考えることが必要。東北3県は現在まとまっているが、あれは知事が主導した。すべての地域で自然にそのようになるとは限らない。	経済的自立を図るために、拠点都市圏、産業集積という拠点の形成が重要であると記載しております。参考とさせていただきますながら、地域ブロックの具体化に向けた検討を進めてまいります。
32		30代	男	研究員	東京都	地域ブロックについては、「ほぼ欧州の中規模国に匹敵するくらいの規模が1つの目安」とあるが、EU経済統合の動きも踏まえると、説得力に乏しいのではないか。	国土審議会基本政策部会報告(平成14年11月)の記載を受けたものであり、グローバル化が進む中で各地域が個性を高めローカル化により競争力を高めることが重要と考えます。
33		30代	男	会社員	神奈川県	「地域ブロック」は経済的自立を目指す地域単位と捉えられているが、米国、EU、中国等との競争関係を考慮すると、「日本」という単位で総体としての競争力を維持・強化することも重要と考える。地域ブロック間の連携に対する国としての戦略が必要と考える。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。各地域が個性を高めることにより競争力を高めることがひいては日本全体の経済発展につながるということが可能と考えますが、記載を追加する方向で検討しています。
34			男	大学教授	東京都	地域ブロックの強化は、道州制につながる。北海道を先行するという話も動いているようだが、これは興味深い。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
35			男	大学教授	東京都	東京以外では、福岡に元気がある。同じ中枢都市でも、札幌、仙台、広島にはこれまでの取組の成果として研究機能は集積したが、雇用を生み出す経済力がついていない。ただし、ここ20年間、地方における研究開発機能の力は強くなってきたと感じる。これは特筆すべきこと。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。

36	(ほどよいまちについて)	30代	男	会社員	神奈川県	圏域の中心となる「ほどよいまち」には、「地域ブロック」の拠点からの波及の受け皿としての役割も期待されているが、具体的にはどのようなことをイメージしているのだろうか。「選択と集中」の結果として、受け皿どころかストロー効果が助長されるのではないか。検討を深めて欲しい。	波及効果の例については、第 部2.(3)に記載しております。また、「ほどよいまち」をふまえた地域づくりについて、地域住民が欲する商品・サービスを地元で生産すること、地元企業が必要とする労働者を地元が提供すること、地域で形成された資金を地域の事業に融資・投資することなど、地域の中で経済を回す」という自助のうえで、地域に内在する資源や諸機能を土台に、他地域や他都市との間で相互に補強・補完しあい、豊かな住民の生活を支える産業を持つことが重要であると記載しているところですが、ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
37			男	製造業	宮城県	地方の大都市志向が根付いてしまった現在、「ほどよいまちづくり」は抽象的なテーマにすぎないのではないか。また「資源を生かす」といっても「開発」という名の自然破壊」を連想させる。	ほどよいまちづくりは、サステイナブル・開発と同等の持続可能性を意識した発展の方向性を示すものですが、ご懸念の趣旨を踏まえ、自然環境などの貴重な地域資源の価値を保つことの重要性について追記しました。
38		50代	男	会社員		「ほどよいまち」に興味を持った。地域特性を生かした、柔軟なマクロバランスが第一義的なのではないかと思いました。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
39			男	大学教授	東京都	何がほどよいのか考えてみると、単なる規模や施設の誘致圏域ということのみならず、地縁的血縁的人間付き合いの「コミュニティ」と目的的功能的人間付き合いの「アソシエーション」がバランスしていることかもしれない。C.A.ドクシアデスが提唱した人間の生活圏の科学「エキスティックス」で15区分された居住環境の基本的階層構造のうち、これは8段階目に相当するもので「パリ」と名付けられている。まさにギリシアの都市国家のイメージでもある。	ご指摘を踏まえ、コミュニティとアソシエーションがバランスしていることについて、バランスのとれていることの事例として追記しました。

40			男	大学教授	東京都	<p>EU、とくに英国の地域づくりの変遷をわが国はつねに後追いしているように見受けられます。</p> <p>内発的発展 (Endogenous Development) に変わって、現在ではネオ内発的発展 (Neo-Endogenous Development) が彼の地ではキーワードになっています。それは従来の地域資源を活かし地域の能力開発や社会障害の克服をめざす内発的発展手法をベースにしながらも、内発的発展論が理想的ではあっても現実的ではないとの反省に立ち、どんな地域にも外発的な力と内発的な力が存在することを前提に、両者の相互作用を求めるべきでは無いかとの考え方です。(「自助」と「互助」に近いかもしれませんが) 地域資源を有効に使い、価値付けを行うこと。地域に利益を還元すること。地域のニーズや能力に依拠した活動を行うことなど地域の内発的な力を高めていくことと同時に、地域外からの介入を分散化しながらも、戦略的に地域外とのパートナーシップを構築する必要があると言われていています。特に、後段については「テリトリー」という言葉で表現されているのが注目されます(地域の外にテリトリーを確保していく…)。</p>	<p>「地域の中で経済を回す」という自助のうえで、地域に内在する資源や諸機能を土台に、他地域や他都市との間で相互に補強・補完しあい、多元的、動的、相対的なネットワークを張り巡らし、他地域との多様な依存関係を深めるという「互助」をバランスした地域づくりが必要であると考えるところであり、ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の具体化に向けた検討を進めてまいります。</p>
----	--	--	---	------	-----	---	---

41	(人口減少、高齢化と地域のあり方について)		男	会社員	東京都	<p>今般より現状認識の中心的な単位として、都市圏とメッシュが取り入れられたのは実に喜ばしい。特にメッシュデータの分析は、旧来の大都市圏対地方圏という大括りな把握をほぼ無効にするような、大都市圏内・地方都市圏内での区画ごとの趨勢の著しい爬行性を明示しており、これに対処する策の必要性を示唆している。</p> <p>しかし他方、旧来の現状把握手法のもう一つの悪弊である、人口増減を社会増減と自然増減に分解せずに趨勢を論じるという点はそのまま残されており、それが国土構造の現状認識のなお残る錯誤につながっている。</p> <p>都市圏単位での社会増減を分析すれば、都市規模と人口流入にはなんら統計的な相関のないことは明確である。すなわち国全体の人口が停滞・減少する時代においては、増え続ける人口を大都市が受け止めるという要因が消え行くため、都市の大小を問わず起きている現有の人口定着要因の強化ないし減衰が表に出てくるということだ。</p> <p>大都市であるから小都市に比べて人口流出に対処する策を特に打たなくても大丈夫であるということにはならない。むしろ大きな人口ストックがあるほど、人口定着要因の減衰の痛みの量的な大きさは深刻になる。正しい分析により、大都市圏の根拠なき楽観と、小都市圏の裏づけなき悲観を正すことが、目下の重要課題であると考える。</p>	<p>今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。なお、第 部4.(1)で大都市圏郊外部では賃貸住宅市場が悪化がみられること、都市圏人口に関わりなく、中心部、郊外とも人口が増える都市圏と中心部、郊外とも人口が減る都市圏が増加し、両極化がみられること、第 部5.(1)で大都市圏でも人口減少と人口分布の変化による都心の拠点性維持と周辺部への対応が課題となることなどについて記載しております。</p>
42		30代	男	研究員	東京都	<p>「高齢化の進展に伴い、地方圏の町村への選好が強まる」とあるが、果たしてそうか。むしろ、社会基盤の充実した大都市都心部への選好が強まるのではないか。</p>	<p>世論調査の結果を年齢別にみると年齢が高い層ほど地方の町村への選好が高いことから、本文のような記述といたしました。が、今後新たなデータ等を踏まえて更に検討させていただきます。</p>
43			男	会社役員	東京都	<p>今後人口減少が進むと人口が少ない地域が発生し、そのような地域をどうするかが課題であることは理解するが、人口が減少すればするほど、都会に住む人口の割合は高くなっていくことが想定されるので、都市のあり方についてもっと議論をして欲しい。日本の都市は美しいし、住みやすくもない。</p>	<p>都市のあり方の検討は重要と認識しており、交通混雑など一部において大都市の過密に伴う弊害に緩和の方向がみられるものの、引き続き課題とともに犯罪の急増といった新たな課題もみられるようになっていくこと、景観などの地域資源を活かした多様な主体によるまちづくり、コンパクトな都市構造への転換が求められることなどを記載しているところですが、ご意見の趣旨を踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。</p>

44			男	大学教授	東京都	人口が減少する中で、都市の活力維持は重要であるが、今後は地方が都市だけで成り立つような事ではなく、都市と多自然居住地域のような田舎が共存して行くような姿が望ましいのではないかと。地方が元気が出るような書きぶりが欲しい。	今後の目指すべき地域社会は多くの選択肢があるものと考えており、都市と農山漁村で相互の役割分担を意識した交流を活性化する地域もその一つとして例示しているところですが、ご意見の趣旨を踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
45			男	大学教授	東京都	人口減少に伴い、間伐しない森林、人が住まなくなった廃屋をどうするかが問題になる。ソフト・オペレーションの問題として、国土計画で扱うべきである。	人口減少、集落機能の低下により、資源管理水準の低下などが生じている中、森林・農業の様々な機能を発揮するため、多様な主体による管理方策を検討するとともに、廃屋等の既存ストックや土地をどう有効に利用、管理するかについても今後更に検討する必要があると考えます。
46	(人口の配置について)	30代	男	研究員	東京都	90年代後半以降の東京圏への人口集中について、現象面の解説にとどまるのみで、その社会経済的な原因分析や、国土政策上の評価が不十分。	ご指摘の趣旨を踏まえ、東京圏への人口集中と社会経済要因の関係との分析(第部1.(2)新しい型の東京圏への人口再集中)及び図表4-( )を追加させていただきました。また、東京圏への人口集中の国土政策上の評価については、調査改革部会報告の総論部分で記載する予定です。
47		40代	男	公務員	長野県	無居住地が今までに果たしてきた役割とは何か。山村の整備・文化の伝承などが考えられるが、それがなくなると地域にどんな影響が出るのか、地方に住んでいる私たちが真剣に考えたいものです。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
48		40代	男	公務員	長野県	無居住地地域になる過程で、生存している高齢者にどのような支援が必要なのかということも地方に住んでいる私たちが考えなくてはならないと思います。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。

3.世界に開かれた魅力ある国土形成と持続的発展のための国土基盤のあり方

	小項目	年代	性別	職業	住所	いただいた主な意見	意見に対する考え方(案)
49	(国際的な競争力・魅力を高めるための基本的方向について)		男	製造業	宮城県	経済的に見て「国際的な競争力をつける＝国内製造業への圧迫」に繋がる要素が多いのではないかと。	厳しい環境に置かれている中で、国内製造業が国際競争力をつけていく必要があると考えます。
50			男	製造業	宮城県	「東アジア日帰り圏の形成」について、「国際的な競争力」の命題を勘違いして「税金の無駄遣いや地球規模の環境破壊」につながらないようにしなければならない。	今後の国土基盤投資については、既存ストックを有効活用しつつ、重点的、効果的かつ効率的に対応していくこととしております。また、東アジア域内交通について環境に配慮していくこと、地球規模の環境問題についてもCO2排出削減等に対応していくことを基本的方向としております。御指摘のとおり、このような認識の下に今後の国土政策に取り組んでまいります。
51		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告書中P18で「このような中で、各地域ブロックは、...魅力を向上させていくことが重要である」とあるが、まさに、言うは易しで、実際は難しいテーマである。例えば、「一層の高質化・高付加価値化が求められる」という中で、観光の高質化、高付加価値化とはどのようなことをイメージすればよいのか、また、東アジアの特定地域に重点を置いた戦略的対応とは具体的にどのようなものをイメージすればよいのか。	観光の高質化、高付加価値化については、観光拠点間の広域的な連携、国際的視点からの観光資源の発掘、ITを活用した情報提供・利便性向上など様々な要素があり、さらに一層の具体化を検討してまいります。東アジアの特定地域に重点を置いた戦略的対応とは、例えば雪の降らない地域の観光客を北海道に誘致するようなことをイメージしています。重点を置くことでより細かいニーズに対応できることになり、相手地域にとって北海道は特別な観光地となりうるものと考えます。なお、戦略の一層の具体化を引き続き検討してまいります。
52		40代	男	会社員	東京都	ブロック連携については、かけ声だけではなく、ブロック連携のメリット、ブロック連携、広域連携が進んでいない現状に照らし解決方法を具体的に自治体等に提示することが大事。	本小委員会では、ブロックレベルの広域連携について基本的方向を示したところであります。ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
53		40代	男	会社員	東京都	産業、観光、交通、農業等について国際競争力の向上に対する基本的方向性を示していることになっているが、内容的には産業の競争力に特化しているのではないかと。観光、交通、農業の競争力向上の方向性について不十分ではないかと。	産業に特化しているわけではなく、観光、国際交通、情報通信についても別途項目立てして記述しております。ご意見の趣旨も踏まえ、より具体的な競争力向上の方向性について今後検討してまいります。

54		40代	男	会社員	東京都	「FTA締結に向けた国内対応の充実」とあるが、現状のどこに不備があり、具体的に何をどのように充実することになるのか。	今後本格的にFTA締結が進展すると、国内産業・雇用などへのインパクトが想定されるため、今後その対応をより具体化する検討をしてまいります。
55		40代	男	会社員	東京都	「環境に配慮した東アジア域内の国際交通の円滑化」「我が国における国際的な人的資源の活用」の意味するところがわからない。	前者は、東アジア域内の国際交通の円滑化は重要であるが、環境にも配慮して進めていく必要があると考えています。例えば、国際貨物の2次輸送をトラックから海運へシフトすることなどです。後者は、外国人研究者、技能者の受入などを考えています。
56		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告中、P18の「地域が中心となって対応するもの」として国際的な環境協力等があげられているが、なぜ地域なのか。国ではないのか。	ここでは、地域ブロックが戦略的に国際連携していくという観点から記述しており、我が国の各地域が特に交流する相手地域を選んで重点的に国際的な環境協力を行っていく方向性が示されており、御指摘のとおり、国としては、国家全体の観点から国際的な環境協力を推進していくものと考えており、このような認識のもとに今後の国土政策に取り組んでまいります。
57		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告中、P18で、「農林水産業の差別化」とあるが具体的にはどのようなことをするのか。	我が国の農産物には質的に優れたものがあり、一部で輸出されているものもあります。東アジアの一員として我が国が農林水産業を活性化していくためには、今後とも質的な向上等により製品の差別化を図っていくことが重要と考えます。
58		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告中、P18で、遠い先の東アジアの労働力人口比率の低下を懸念する前に、日本人の少子高齢化の中で日本の労働力人口を如何に確保するかを考えるべきではないか。人口の自然減は避けられないとしても、これを社会増で補い、確保すべき労働力人口の目標を示すべきではないか。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
59		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告中、P20で、FTAと同列に静脈物流が論じられるのは違和感がある。また、コンテナを取り上げるだけでは不十分でないか。	今後の国際物流を増大させる大きな要因としてFTAと静脈物流を挙げさせていただいています。また、コンテナは例示であり、拠点的な整備・運用を進めることとしています。
60	(アジアとの関係について)		男	製造業	宮城県	アジアの急速な経済発展が「自然との共生」に影響を与えるのではないか。	東アジアの持続的発展のため環境問題等で東アジアをリードするとの基本的方向を記載し(P.17)ており、ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。

61		40代	男	会社員	東京都	東アジアがEU、北米に伍していくために、なぜ、大都市問題、環境問題が大事なのか。逆にEU、北米はこれへの取組が理由で発展しているのか提示すべき。	東アジアが持続的発展をしていく上で大都市問題、環境問題は障害となっていくと考えます。
62	(広域国際交流圏について)	40代	男	会社員	東京都	基盤の報告について、P12で「魅力ある立地環境の整備」とあり、P14でその分析として「コスト、優遇措置が不十分」とあるが、分析が皮相的すぎないか。コストを東アジアと単純に比較するだけでなく、日本のもてる優位性を加味した解決方向の提示が必要ではないか。また、魅力あるといった場合に欧米系とアジア系企業とでも大きくその内容は違うのではないか。	第2回小委員会では技術レベルの比較、産業構造の変化、研究開発費などについても国際比較を行っています。ここでは代表的な例としてコスト、優遇措置について記載しています。また、欧米系と東アジア系との区別などより具体的な方策は、ご意見の趣旨も踏まえ引き続き具体的な検討を行ってまいります。
63		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告について、P15の、は単に事実を述べているに過ぎず、この事実を踏まえた上であるべき方向に導くための課題設定が必要でないか。では、コンテナ貨物量のデータのみで広域国際交流の課題設定をしているが、短絡的かつ単純にすぎないか。	ここでは主に課題の抽出を行っており、についてはアジアでの国際交流がEUほど活発でないこと、広域的な連携による国際交流が期待したほど伸びていないことを踏まえ、基本的方向において対応を記述しています。 の課題は、一番関連が深いものとして図表6を示しているところでありますが、図表11の輸送ルート変更に伴うコスト削減事例や図表12の東アジア主要港における基幹航路寄港数をはじめとして、その他公表している第1, 2回小委員会資料も参考にして記述しています。
64	(国際交通体系について)	40代	男	会社員	東京都	羽田-金浦チャーター便をシャトル便化し、北京、上海、香港、台北に拡大する。	東アジア日帰り圏では、東アジア諸都市への日帰りが可能となるような利便性の向上を図ることを基本的方向としており、ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
65		40代	男	会社員	東京都	日本海のフェリーネットワーク(北陸-韓国-ロシア等)を構築する。その際に、トラックや乗用車の相互乗り入れを可能にする規制緩和も合わせて実施すべきである。	東アジアのシームレスな国際交通を基本的方向として記載しており、ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
66		40代	男	会社員	東京都	国際物流については、三大湾に加えて、太平洋岸に国際物流センターとなる拠点を既存施設も活かしつつ開発する。候補地としては、沖縄や四国など。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。

67			男	会社役員	東京都	今後の港湾の運営についてはロジスティクスが重要であり、需要にあわせた物流体系の構築が必要。このためには情報化の推進と、相手国との綿密な連携が必要。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
68	(国内交通体系について)	40代	男	会社員	東京都	基盤の報告に、シームレスな交通体系とあるが、カボタージュ(自国船籍主義)の問題についてはどのように考えるのか。内航についてはカボタージュを撤廃すればシームレス化が進むのではないか。	カボタージュについては慎重な対応が必要と考えます。ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
69		40代	男	会社員	東京都	小型ジェットや最新プロペラ機を活用できる空港整備により1日交通圏の拡大をはかるべき。	小型機材の運行を可能とする環境整備も視野に入れるとの方向性を出しており、ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
70		40代	男	会社員	東京都	国内フェリーネットワークの整備を図るべき。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
71	(観光について)	40代	男	会社員	東京都	基盤の報告について、外国人旅行者のデータがあるが、我が国の入り込み客数が低位にある原因について分析すべきではないか。	外国人旅行者が少ない原因は、すでにグローバル観光戦略などで分析されており、第2回の小委員会の資料でも記載しています。
72		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告について、P13で「各地域ブロックでは観光等交流が着実に進展している」とあるがこのような評価でよいか。P11の分析と矛盾しないか。	P.13の観光は、我が国からの出国も含めた観光交流を指しているため、外国人旅行者のみについてのP.11の記述と矛盾していないと考えます。
73		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告中、P19で、観光の魅力の向上に係る基本的方向性が書かれているが、なぜ入り込み客数が少ないのかを十分に分析した上での方向性でなければ極めて空疎なものに感じられる。	外国人旅行者が少ない原因は、すでにグローバル観光戦略などで分析されており、第2回の小委員会の資料でも記載しています。
74			男	会社役員	東京都	国際観光に関して、外国人は、古い町並み、旅館、和食など日本の伝統文化に大変感激する。この様な日本の伝統文化を残すことが必要。このためにも、京都のような日本の古い町並みをいかに残していくかを考える必要がある。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。 なお、「地域の自立・安定小委員会報告」で第4.(2)で景観形成の取り組みの状況、第3.(2)で地域資源を活用した地域づくりの基本的な方向性について記載していますが、今後具体化に向けた検討に努めてまいります。

75			男	会社役員	東京都	国際観光に関して、外国語の看板の設置など、外国人が安心して移動できる環境整備は重要である。	貴見のとおりと考えます。 なお、これに関連し、4. (2) 「国際的な観光の魅力の向上」において「外国人も安心して移動・運転できるような交通環境の形成、外国人向けの国内における観光に関する案内が必要」と記述しています。
76	(外国人について)	40代	男	会社員	東京都	東アジアの一員を強調し、外資の導入をというのであれば、まず、現在国内に最も多く居住する外国人である韓国人、中国人にとっての立地環境、居住環境の分析が大事ではないか。外国人とって一括りに考えていても解は見いだせないのではないか。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
77		40代	男	会社員	東京都	留学生受け入れはもちろん大事だが、留学生の卒業後の就業、就業に至らない間の滞在許可等制度面の充実が不可欠。現状不十分な部分をしっかり分析し、その解決方向を示すべき。	ご指摘の趣旨はP.18に「留学生の就職に関する制度的障壁を低くする」と記載しています。
78		40代	男	会社員	東京都	「外国人向けの居住・医療・交通」とあるが各国語で書かれた案内標識等のことか。何をイメージしたらよいのか。	ここでは、案内標識等のほか、外国人学校、外国語のできる医者、など外国人の生活に必要な環境全般を考えています。
79	(書き方について)	40代	男	会社員	東京都	基盤の報告について、状況分析、課題設定、解決方法をきちんと書き分けた方がよい。	全体構成として、各章を現状と課題、基本的方向に分けて記述しており、ご指摘の状況分析と課題設定については「現状と課題」、解決方法については「基本的方向」に対応していると考えます。
80		40代	男	会社員	東京都	基盤の報告について、「・・・必要がある」「・・・べき」などの表現が多数見受けられるが、主語が明確でない。(国、地方、民間なのか分からない。)	本中間報告では、今後の国土のあり方について基本的な方向性を示したものであり、より具体的な方策を今後検討することとしています。主体を明確にしていくのは今後の検討課題の一つと認識しています。
81			男	会社役員	東京都	国際連携という言葉は、自らが行動を起こすという能動的な言葉であり、国際化やグローバル化は好むと好まざると自然とそうなるという受動的な言葉であるので、ちゃんと使い分けられているかどうか確認しておいた方がよい。	ご指摘の趣旨を踏まえ、標題を修正いたしました。

82	(その他)	40代	男	会社員	東京都	三大湾、瀬戸内の海水浄化の技術開発を図るべき。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
83		40代	男	会社員	東京都	津波対策のためのハード・ソフト一体となった対策の推進を図るべき。	今後の国土政策の検討に当たり参考とさせていただきます。
84		40代	男	会社員	東京都	「外国人起業家の育成・支援」とあるが、なぜ外国人に限定するのか。日本人起業家の育成・支援も大事ではないのか。	日本人起業家も当然重要であるが、ここでは文脈上外国からの人や資本の受入について述べており、見落としがちな外国人起業家の重要性について指摘しています。ご意見の趣旨も踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。

## 4.持続可能な美しい国土の創造

	小項目	年代	性別	職業	住所	いただいた主な意見	意見に対する考え方(案)
85	(持続可能性と美しさについて)		男	会社役員	東京都	「美しい国土」は10年、20年先の国土づくりの目標としてふさわしいと思う。	「持続可能性」と「美しさ」については、これからの政策の基本方向の全体を貫くものとして特に重要と考えています。そのため、今後は各種政策の反映方策等について検討する必要があると考えます。
86		30代	男	研究員	東京都	「持続可能性」「美しさ」といった規範に具体的な価値尺度を与えることが国土計画の役割ではないか。	
87			男	会社役員	東京都	「美しい国土」では持続可能性と美しい国土を並列に書いてあるが、美しい国土づくりは持続可能な国土づくりの戦略と見るべきではないか。両者が並列であると、持続可能性のためには、美しい国土づくりをある程度犠牲にしてもやむを得ないと言うような議論にもなりかねないのではないか。	「持続可能性」と「美しさ」については上下関係に置くのではなく、両者同時に追求すべきものと考えています。特に、国土の現状を踏まえると、「美しさ」は「持続可能性」の一戦略としてではなく、「持続可能性」と並列する重要な位置づけを与える必要があると考えます。
88			男	大学教授	東京都	国土の美しさを言うときには、日本の都市の美しさをどうするかというのが大きな課題ではないか。諸外国に比べ日本の都市は美しいとは言えない。日本は古いものを活かして補修して活用していく習慣がない。今後の国土基盤投資も美しさを追求していくべき。	都市の美しさは重要と認識しており、景観などの地域資源を活かした多様な主体によるまちづくり、既存ストックの有効活用、コンパクトな都市構造への転換が求められることなどを記載しているところですが、ご意見の趣旨を踏まえ、今後とも国土政策の推進を図ってまいります。
89	(その他)		男	大学教授	東京都	観光と言う手あかのついた表現では魅力に乏しいのかもしれないが、国土保全とツーリズムを積極的に政策としてむすびつけていくことは、国民の関心を呼びおこし、環境保全ボランティア等の自発的活動を促し、地域の経済に一定の貢献をする意味から重要だと思う。外国人にとっても国土保全型ツーリズムは魅力的なものだと思う。	農山漁村の魅力が再認識され、グリーン・ツーリズムへの関心の高まる中、里地里山の保全、都市と農山漁村の共生「対流推進会議」に見られるような国民的運動等が実施されつつあり、今後、多様な主体による国土資源管理をより進める方策を検討していく必要があると考えます。
90		40代	男	公務員	兵庫県	防災などの大きなテーマを扱い「東海・東南海地震」と共存する国土という視点で議論してみてもどうか。	ご指摘の趣旨及び東南海・南海地震対策大綱(中央防災会議)が平成15年12月に定められたことを受け、ハード対策とソフト対策を効果的に組み合わせた防災対策の確立に関する記述を追加しました。

91			男	製造業	宮城県	国土資源の有効利用について「施業放棄森林、耕作放棄地」などが挙げられているが、これを開発につなげ自然破壊につなげてはならない。	中山間地域等直接支払制度 森林環境税の導入等さまざまな取組が行われ始めている状況であり 森林・農業の様々な機能を発揮させる管理を行う方向で検討していきます。
92			男	製造業	宮城県	「都市的土地利用の秩序ある集約化」は空虚な言葉である。「開発という名の自然破壊」を無理矢理おしつけた大義名分ではないか。	「都市的土地利用の秩序ある集約化」は、人口減少、財政制約の条件のもとで地域の活力の維持向上や、維持管理コストの少ない地域社会への転換に加えて、環境負荷の低減や、自然環境の恵まれたところに暮らすなどの緑豊かなゆとりある生活環境の向上のためにも、自然環境の再生と活用とあわせて行う必要があり、本報告ではその旨記載しています。
93			男	製造業	宮城県	漁港の整備など生活者のための最低限の整備は進めるべきだが、「短絡的発想」のもとで砂浜の流出防止などの応急処置のために行われたモノは逆効果で、潮流の変化により水質汚染、生態系への影響、生活上の危険区域にまで発展している現状もすくなくない。これからは、「20世紀の負の遺産」を戒めとして、実態のある「質の向上」を目指していただきたいと思っている。	いただいたご意見を踏まえ、国土の利用、開発及び保全を一体としてとらえ、また各地域で効果的な取組を進め得るように、今後更に検討を進める必要があると考えます。